



日本橋川にサケの稚魚を放流

2月8日(金)、日本橋船着き場にてサケの稚魚 30,000 匹を放流しました。

当日は輸送途中にアクシデントがあり稚魚の到着が予定より2時間遅れ、ご関係の皆様にご迷惑をお掛けしましたこと、お詫び申し上げます。

放流に参加する予定だった中央区立常盤小学校の皆様には、急きょ予定をキャンセルすることになり、申し訳ございません。

稚魚到着後は、名橋「日本橋」保存会の皆様が通りを行き交う買い物客やサラリーマンにお声かけしていただき、100名近くの方々にご参加をいただきました。

大変冷え込む中でしたが、放流に参加された方は、日本橋川がきれいになってきていることを実感していただくと共に、3年後にサケが元気な姿で戻ってくることを願い、お楽しみいただけた様子でした。

ご参加くださいました皆さま、ありがとうございました。



映画「蘇生」制作に向けて準備進行中

「共生」の理念に基づく新技術や研究活動を広く紹介することをテーマに映画の製作を続けてこられた白鳥哲監督が、次回作「蘇生」に向けて準備をされています。

環境汚染の問題は複雑・深刻さを増し、とりわけ福島第一原発事故を発端とする放射能汚染は、私たちが後戻り出来ない窮地にまで追い込んでいます。

このような状況の中、白鳥監督は地球を蘇らせる技術や研究活動に着目し、多くの方に賛同してもらいたいとの思いから、映画「蘇生」を企画するに至ったと伺っております。

白鳥監督は環境問題を解決するには微生物の力を引き出すしかないと考え、人類の祖先でもある微生物と共存する社会こそが望ましい理想像であると提唱しておられます。

今回私たちにもなじみ深い「蘇生」というタイトルが付けられているように、白鳥監督は、地球蘇生へのプロセスにおいてEMの果たす役割にも大変注目しておられます。同時に比嘉照夫教授の研究者としての姿勢や社会貢献活動にも着目しておられ、前作の「祈り」において村上和雄教授が主要な位置付をされていたのと同様に、映画「蘇生」においては比嘉照夫教授が大きく取り上げられることと思われれます。

現在、比嘉教授へのインタビューを元にした予告編がYouTubeで公開されています。

また、監督のWEBページにて映画「蘇生」のコンセプトが紹介されています。

■地球ビジョンクリエイター 白鳥哲 <http://tetsushiratori.razor.jp/home.html>

なお、同時に「蘇生」制作にあたってのチャリティー基金も募集しておられます。詳しくは白鳥監督のホームページをご覧ください。WEB接続環境が無い会員様におかれましてはU-ネット事務局までお問い合わせください。

■映画「蘇生」チャリティー基金 <http://tetsushiratori.razor.jp/sosei/index.html>



お詫びと訂正

前号(240号)に掲載しました「みやぎ農園」様の所在地を「沖縄県大里村」と紹介しましたが、正しくは「沖縄県南城市」です。お詫びし訂正いたします。